

要 旨

The Longest Journey Begins With a Single Step : A Comprehensive Study of the Vocabulary Learning of Junior High School Students in Japan

板倉 智子

近年、第二言語習得研究の分野において、語彙学習の重要性が見直され、多くの研究者によって研究が進められている。しかしながら、日本人の初級レベルの学習者を対象とした語彙学習の研究は少ない。言語習得において、母語の違いや、文化的・教育的背景が学習結果に大きな影響を及ぼすこと、また、初級レベルの学習者にとって語彙学習が負担の大きい学習項目であることを考慮すると、日本人の初級レベルの学習者を対象とした語彙学習方略について研究をすることは意義深い。この論文の研究課題は以下の3つである。(Ⅰ) 日本の中学生は英単語を学習する時にどのようなストラテジーを好んで使用しているのか。(Ⅱ) ストラテジーの使用と学習の自律性、語彙サイズには何らかの関係性があるのか。(Ⅲ) 学習スタイルの好みや性別といった、その他の個人差が語彙学習に与える影響はあるのか。

本研究は京都の私立の女子中学校の一年生、大阪の公立中学校の一、二年生、合計201名を対象として実施した。参加者には語彙サイズテストと、ストラテジーの使用や自律学習について尋ねた質問紙への回答を依頼し、データを収集した。

この結果、研究課題(Ⅰ)に対して、次のことが明らかになった。(1) 中学生が最も使用しているストラテジーは「英単語を何度も書いて覚える」、「英単語を何度も声に出して覚える」という、いわゆる丸暗記法と言われる方法であった。その次に、「よく出てくる単語を覚える」という方法が使用されていた。次に、研究課題(Ⅱ)に対して次のことが明らかになった。(2) 成功している学習者は、より自分にあったストラテジーを持っており、その満足度も高い。一方で、使用してるストラテジーの数については、学習者間で大きな差異はなかった。(3) 成功している学習者は、

より認知的な方法を使用している。(4) 語彙サイズとストラテジーの使用、自律性には大いに相関関係が見られた。最後に研究課題(Ⅲ)に対して、以下のことが明らかになった。(5) 日本の中学生は視覚を用いた学習スタイルを好む傾向があることが分かった。現時点で学習スタイルの好みと語彙サイズとの関係を断定することはできないが、中学生が視覚を用いる傾向があるという結果は注目に値する。(6) 男女差による語彙学習への影響は見られなかった。

以上の結果より、日本の中学生の語彙学習において、自分に合ったストラテジーを見つけ、学習の習熟度に応じ、より認知的な方法へ変化させることの重要性が明らかになった。またストラテジーと自律性は相互補完的な関係にあり、学習の成功に貢献する要因であることも明らかになった。